



寄居ロータリークラブ 会報

YORII ROTARY CLUB



R.I.会長
ゴードンR.マッキナリー
第2570地区ガバナー
高丹 秀篤
第4グループガバナー補佐
原島 生慈



令和6年5月15日(水)

会場 Spark (寄居町商工会)

第2728回例会

司会 小鮎 哲夫 (SAA)

点鐘 松本 則之会長 (12:30)

ソング 奉仕の理想

1. 会長の時間

寄居RC 松本 則之さん

皆さんこんばんは。本日は上の代の方の人生経験を、若い会員に伝えたいと考え、剣道を通じて体や心を鍛えてきた小宮さんをお願いしました。柴崎正さんも剣道を極められた方なのですが、都合がつかないということでした。その後、浅見さんに終戦のとき、確か11歳か12歳ぐらいの方なので、そのときの体験談とか、そういった事を若手



会員に伝えていただけないかということをお願いしたのですが、浅見さんも都合がつかないとの事でした。清水さんも考えたのですが、清水さんは父親を早く亡くして、自分の事業を頑張ってこられた人生経験豊富な方なので、お話させていただきたいこともあったのですが、来週が親睦委員会の日帰り旅行ですので、忙しいというもありまして、小宮さんに卓話をお引き受けいただきました。

さて本日は、私が気に入っている、しかもなかなか認知度が低い、私にとってはヒーローの話をする。

イスラエルに、ゴールデンブックというユダヤ民族が感謝する人たちの名前が書かれているものがあります。1人目はモーゼ。キリスト教の十戒の方です。2人目はアインシュタイン。ユダヤ人の大科学者です。3人目が、名前が出てこないですが世界的なユダヤ人の音楽家で、4人目になると日本人の名前があるそうです。私はここまで聞いて近年テレビでやった「命のビザ」で有名な杉原千畝さんかと思いました。ナチスの迫害から逃れてきた人たちのために、日本国の命令を無視して独断で6000人もの命を救ったこの方かなと思ったら、どうも違うそうです。

杉原千畝さんが、「命のビザ」を書く2年ほど前に2万人ものユダヤ人を救った日本人がいるということ、私も最近になって知りました。その人の名前がゴールデンブックにはゼネラル樋口と記載されています。

本名は樋口季一郎。1888年、明治21年兵庫県の淡

路島の生まれです。樋口氏は陸軍士官学校陸軍大学校で学びながら、ロシア語を一生懸命勉強し、優秀な成績で卒業した後、1925年のウラジオストック、シベリア出兵に付き添い、また満州国、ソビエト、ポーランド等各地を赴任したようです。ポーランドに居た際は、ユダヤ人の家庭に下宿をし、そこでユダヤ人の家族によくしてもらったそうです。その際にユダヤ人はナチスからものすごい迫害を受けているということ、樋口氏は知ることになります。

樋口氏は順調に昇給していき、満州国のハルビン特務機関長という職に就任しました。その際1937年、大本營の認可のもとに第1回極東ユダヤ人大会が満州国で開かれました。この大会に樋口氏も招かれたということです。この席で樋口氏はナチ党政権下の反ユダヤ政策に触れ、ユダヤ人を追放するのであれば、その前にユダヤ人に土地=国家、土地を与えよということ、間接的ではありますが、ナチスを猛烈に批判すること、会場から拍手喝采を受けました。これはドイツの耳にも入りましてドイツの外務省より猛抗議を受けたそうです。

そのことも冷めやらぬ1938年、ナチの政党から迫害を受け、ドイツまたはドイツ周辺国から安全な土地を求め、多くのユダヤ人がユーラシア大陸へ移動し始めました。ユーラシア大陸を横断した理由が、中国の上海が、外国人に自由にビザをを与えるということでした。ロシアと満州国の国境沿いにオトポールという町があり、そこにたどり着いた一隊がありました。ハルビン特務機関長である樋口氏に部下から報告が入りました。

機関長、ソ連国境を通る駅周辺に2万人のユダヤ難民が助けを求め、満州国の入国を願っているそうです。そのときの状況はソ連は寒いところですので、気温がマイナス30度、ソ連もナチスとまではいかないのですが、ユダヤ人を嫌っており、施設に保護することは一切なく、野ざらしの状態で2万人が凍え死ぬのを待つような状況で放置されているということでした。樋口はこれは大変だと思い、

大本营に満州国入国の許可を求めたのですが、日本は当時ドイツとどうしても同盟を結びたいという希望があったので、これを認めず拒否しました。樋口は2万人もの人を見捨てることができず、覚悟を決め、妻に「私は軍をクビになるだろうから、日本に帰る荷造りをしておいて。」と言いつけたそうです。

それで、独断で2万人のユダヤ難民を満州国に入国させ、ビザを手配し、満州鉄道も使わせ、無事ユダヤ人難民を保護、救出しました。このとき、当然日本はドイツから猛烈な抗議を受けました。

樋口はその後、当時広東軍司令官の東条英機に呼び出しを受け、今回の独断による命令違反について樋口の信念を問いました。その際樋口は「日本は独立国であり、ドイツの属国ではありません。なぜ人道的な行為をするのに、ドイツの顔色を伺わなければならないのでしょうか？」もう首覚悟の人ですから、怯まず弁明することなく、東条英機に堂々とその理由を説明したということです。東条英機もこれを理解し、樋口を一切咎めるとか処分を下すことなく、ドイツに対して「日本は人道的観点から当然なことをしただけだ。」と伝えたそうです。腹が据わった対応を取ってくれたなど感じました。

その後、時期はよくわかりませんが、第5方面の日本軍の司令官まで昇進した樋口ですが、日本は南方の戦いだけが有名ですが、アラスカの方アリューシャン列島でもアメリカ軍との攻防戦がありまして、旗色が悪くアーツ島とキスカ島で圧倒的な数のアメリカ軍に囲まれて、もう日本はどうにもならない劣勢に立たされていました。しかし、これを助けたいということで大本营に援軍を求めましたが、日本はその当時南方への戦力を重視しており、これを拒否。その2島を守るには脱出するしかないということになりました。2島だと難しいので、泣く泣くアーツ島、これは樋口が玉砕命令を出したという話もありますが真偽はわかりません。キスカ島に日本軍は多くの部隊がいて、相当確率の低い困難な作業でしたが、5200人を脱出させました。キスカ島というのは定期的に濃い霧に囲まれる気候でした。その気象の予測を今で天気予報士のような方に調べるよう命じ、見事タイミングを合わせ脱出しました。その際武器は全て放棄するようにと命令をして、とにかく人命だけ、裸一つで船に乗って逃げなさいと命じていたようです。当時の日本の小銃には天皇家の象徴たる基本が透過されており、この銃は日本人の魂だと教え教え込まれていたもので、これを放棄するのはとんでもないことだとの意見もありましたが、樋口はこれを無視し、武器を積み込んでいれば一瞬の霧が出るタイミングを逃してしまうということで、人命優先で奇跡的な救出劇を成し遂げたということです。これはアメリカ軍からも後にパーフェクトゲームと呼ばれ称賛されています。その5200人の部下たちは、主に千島列島樺太の一番近くにある鳥守島という島に赴任させました。これが後に意味をなすこととなります。ただ8月15日天皇陛下による玉音放送で日本は降伏をし

ました。

そのとき大本营は各地の部隊に8月18日午後4時までに武装解除をするように伝えました。その解除というのは弾薬の処分です。全て銃も解体して戦えないようにするという命令でした。

ところが樋口はソ連通でした。終戦間際になって、日ソ不可侵条約を破り美味しいところだけ持っていこうと参戦した、ソ連のスターリンを大変疑っていました。満州国でも、やはり終戦間際にソ連の戦車が入り、日本人を殺害、連行し、好き放題していたことがありました。

ちょっと余談ですが、零戦の特攻隊、あとは潜水艦を使った自爆。これは有名ですが、満州のソ連の侵攻に対して、日本は南方に武器弾薬を持って行っているわけですから、ほぼない状態。兵もあまり残っていません。ところが入ってくるソ連の戦車に対して、当時の士官学校学生であった若者たちが、日本に残っている武器はなかったのですが、倉庫に土地の開発用のダイナマイトが残っていたということで、学生たちは誰の命令を受けることもなく、自分たちの意思でリュックにダイナマイトを背負って、ソ連の戦車の下に潜り込んで自爆してソ連の進軍を遅らせたという話も残っています。余談ではあるのですが、自分の子供より小さいような若者たちが、懸命に自分の愛する国ために命を投げ出したという行為があるのだなというのを紹介したく、挟ませていただきました。

スターリンの目的はやはり北海道を侵略するということでした。樋口の読み通り、終戦から3日経った18日の深夜午前2時、ソ連軍が樺太から一番近い占守島に奇襲をかけたそうです。ただ樋口は部下に、きっとソ連は奇襲をかけるだろうということで武装解除をギリギリまで遅らせていたということもあり、占守島というのは上陸できる浜が地形上の地点で1ヶ所しかないので、非常に守りやすい島だったということもあります。奇襲はされましたが、奇襲を受けたときも、敗戦後の攻撃のため、部下がどう対処したらいいのか、反撃してもいいのかとかいう疑問があって、樋口にその指示を仰いたそうです。そこで樋口は断固反撃し、これを撃破せよと、迷いのない強い指示を出したということです。これによって1日でソ連軍は大打撃を受け、戦死者も2000名以上出たと言われています。ただ戦闘の裏で日本政府とソ連の上層部で掛け合ったのでしょうか。日本は勝ち戦の状態です。それを横目に残ったソ連兵は北海道に向かって南下しました。ただ当初の目的は北海道の上陸でしたが、壊滅的なダメージを受けたためにそれができず、北方四島への上陸にとどまったということになります。北海道は樋口と、もちろん樋口の部下たちと一緒に北海道を守ったということになります。その後、戦後の裁判がありまして、スターリンからすれば樋口は目の敵になります。戦犯として樋口をソ連に引き渡すようマッカーサーに求めたんですが、マッカーサーがこれを拒否しました。これは1938年に樋口が救出したユダヤ人を超える多くの人がアメリカに渡り、

世界ユダヤ人協会、これの幹部にまでなった方もいたから
のようです。

ユダヤ人は金融などを支配するほど多大な力を持って
まして、ロビー活動によってアメリカ政府を動かしたの
ではないかと言われております。これだけの偉業を成した樋
口ですが、戦後1年間は部下の委嘱の面倒を見る仕事を
したようですが、その職務を1年間で解かれ、晩年は貧しい
生活で誰かも称えられることなく生涯を閉じたという
ことであります。ようやく近年になって、その活躍が評価
され2年前に出生地の淡路島に銅像が建てられたとのこ
とです。以上で終わりにします。

2. 幹事報告

寄居RC 松本 幸男さん

改めまして、こんばんは。幹事報告をします。まず初め
に「2024—25年度の年度初め地区役員合同会議開催」



の案内が届きました。地区役員の皆
様は7月6日15時、川越プリンス
ホテルとなっています。6月21日
までの出欠確認となっております
ので、早めに事務局まで連絡を
してください。よろしくお願いいたします

いよいよ来週は親睦旅行です。参加される方は会費を納
めてください。よろしくお願いいたします。会費を納めないと、
歩いて行くか、走って行く事になります。それに着いた後
も法務省のSPに取り押さえられるかもしれませんし、国
技館でも体格の良い方に・・・と、いろいろご不便もある
かと思っておりますので会費をぜひ納めてください。どうぞよ
ろしくお願いします。集合場所はいつもと違います。こちら、
スパークになっています。今回の親睦旅行からスパーク8
時集合出発ですので、くれぐれも間違えないよう、よろし
くお願いします。幹事報告は以上です。

3. 委員会報告

(1) 出席推進委員会

小宮俊光さん

| 例会日 | 総員 | 欠席 | 出席 | MU | 出席率 |
|------------|----|----|----|----|--------|
| 5月15日 | 36 | 10 | 26 | 0 | 72.22% |
| 5月8日の修正出席率 | | | | | 80.56% |

(2) ニコニコボックス委員会

下条 誠さん

松本 則之さん 小宮さん、本日はよろしくお願
いします。楽しみです。そして勉強させて
いただきます。

松本 則之さん 大谷翔平、12号一！
スカッとしました。

松本 幸男さん 小宮さん、本日の卓話、大変
楽しみにしていました。たくさん勉強させて
ください。よろしくお願いいたします

多めにいただきました

津久井大雄さん 早いもので本日で議員2年目に入
りました。引き続き、ご指導宜しくお願
い致します。

津久井大雄さん 小宮さん、
卓話宜しくお願
い致します。

佐橋 正行さん 小宮さん、卓話楽しみにして
います。

小宮 俊光さん 本日、松本会長の命により卓話を行
ない
ます。拙い話ですが、宜しくお願
い致します。

山口 正彦さん 小宮さん、卓話、じっくり聞か
せて
いただきます。

柴崎 猛さん 小宮さん、卓話楽しみにして
います。

清水 浩一さん 小宮さん、卓話楽しみ
です。頑張って
ください。

清水 浩一さん トンボ講演だよりを配ら
せて
いただきました。ご一読いただけると幸
い
です。

三友 俊一さん 本日より
よろしくお願
い
します。

安齋治一郎さん 小宮さん、卓話
楽しみに
して
いました。ロータリーの事、た
く
さん話して
くだ
さい。

荻野 真仁さん 所用によりお先に失
礼
します。来週の相撲が楽しみ
で
す。

橋本 則彦さん 改正税法の手引きを
お配
りさせて
い
た
だ
き
ま
す。

小宮さん、卓話よろしくお願
い
します。

森田 淳一さん 小宮さん、本日の卓話
楽しみに
して
お
り
ま
し
た。本日、宜しくお願
い
致
し
ま
す。

小鮒 哲夫さん 小宮さん、卓話
楽しみ
で
す。鈴木さん、よろしくお願
い
し
ま
す。

権田 功さん 本日もよろしくお願
い
致
し
ま
す。

高倉 隆綱さん 小宮さん、卓話
楽しみに
して
い
ま
し
た！本日はよろしくお願
い
致
し
ま
す。

豊田 康業さん 小宮さん、本日の卓話、
大変
楽しみに
し
て
お
り
ま
す。よろしくお願
い
し
ま
す。

押田 大助さん 小宮俊光さん、
卓話、
楽しみに
して
お
り
ま
す。

土師 賢一さん 小宮さん、卓話
楽しみに
して
お
り
ま
す。本日も宜しくお願
い
致
し
ま
す。

権田 功さん 前回欠席のため。

下条 誠さん 小宮さん、卓話
楽しみに
して
お
り
ま
し
た。勉強させて
い
た
だ
き
ま
す。



卓話**小宮 俊光さん**

改めまして、皆さんこんばんは。ニコニコにも書きましたが、ゴールデンウィーク前でしたか会長から、卓話をお



願いしたいと電話がありました。題は「強い心について、あるいは強い心の作り方」という話でした。

まず強い心というのは、どういう心持ちかとかどのように心が強くなるのかとしみじみ改めて考えました。毎年暮れに清水寺の住職が今年一年を表す漢字一字…とか。そのようにふと、漢字一字で表したら何かな、高いとか大きいとか、いろんな一字があるけれど何かなと思って考えていたら、「平」じゃないかと思いました。「心の」というのは、諸説ありますが「心というのはコロコロ変わる」だからココロと言う。ちょうどPTA会長をしていた30年前くらい前にその話を聞いたことがあります。

だから、変わらないように「心掛ける」。一つのことを何か考えたら「心に掛ける」そうです。それが変わらないように心がけるという事だと聞きました。心が波立たない、荒れないように平らにいる、ということがやはり一番強い、良い心持ちなのかなと改めて思いました。そのときに浮かんできたのは、だから剣道には「平常心」という言葉があったのか。中学1年から剣道を初めて、大会などで平常心とか不動心とか書いた字がたくさん掲示されていました。66歳と5ヶ月でやっとこういうことがわかったのかということで、松本会長には非常に感謝しています。わからせていただいたのだなと、こういうのが縁なのかなと。こういう人の結びつきもあるし、自分も何か成長の過程だとか気づきがあります。そういうのはやはり縁なのかな、それがロータリーなのだなと思いました。その波立たない心、平らな心というのは非常に難しくつくづく思っています。ですから、そういう点では自分は心強くない、弱いですね。何かあったときに心が動いてしまう、自分はこんなに心が弱いのだなと。というのは喜怒哀楽が出てしまうしイライラしますね。

心持で大事なものは「怒らず、恐れず、悲しまず、正直、親切、愉快、楽しく」ということを禅のお坊さんから教わった、という話を、元巨人軍で名プレイヤーの広岡さんが坂戸さつきクラブのチャーターナイトのときに講演の中で話されていたことを今でも覚えています。

場所は坂戸公会堂だったと思います、かなりの人数が入って皆さん楽しみに待っていました。確か平成5年ぐらいだと思います。広岡さん今遅れています、ちょっと連絡がつかえません。というようなアナウンスが流れて、1時間20分ぐらい待ちました。やっと到着していきなり講演が始まりそのときにいろいろな話が出て、怒らず、恐れず、悲しまず、正直、親切、愉快に、楽しくということをお話されたこと。そして元巨人の川上さんと牧野さんの事を延々と話されたことを鮮明に覚えています。多分そのとき一緒に行った、今でも付き合いのある妻沼ロータリーを私に推薦し

てくれた、須藤歯科医院の須藤さんも覚えていると思います。帰るときに手を振って「握手お願いします。」と言っていました。大ファンだったそうです。

そのようなことで、心というのは常に変化したり、波打ったりしないで一定に保っていくという事がやはり強い心なのかなと思います。勝負の世界でも今大相撲の話が出ましたが、そういう心が保てれば強い力士であると思います。皆さんずば抜けた身体能力がある方たちですから、勝負はほとんど心の問題となり、その心が平らに波立たなくなっていけば、強い心で勝利をしていくと。このようにいろいろ話しながら、平成元年から会社を始めて35年になって36年目に入りますが、此のままだと半年後にほぼ倒産かなというくらい厳しく苦しい経営状況もありました。税理士の先生はわかると思いますが、当社の簡易償還年数が平成21年から22年の決算のときは、後でわかったのですが385年！！人間で言うともう臨終が近いのでご家族・親族を呼んでくださいというレベルです。そのときは毎晩1時間ごとに目が覚めるし、全く寝られないし、もう本当にきつかったです。これがリーマンショックの時です。しかし令和2年からのコロナの時は、実はリーマンの時よりも財務内容が悪かったです。だけ寝られました、やはり一度どん底を経験した慣れというのがあるのでしょうか。あのときにこういうふうに行ったという「凌ぎ方」、そういったものが出てきて、焦らず・恐れず・先を悲観せずに正確に数字を把握して割と落ち着いていました。

そのコロナのときにつくづく思ったのが、先ほど松本会長が自分は剣道家と言われましたが、自分はただ剣道部にいたというだけで、そんなに熱心にはやってないです。ただ、良い師と良い友に巡り合えたということです。大学時代の監督は岡村忠典先生で、かつて全日本剣道連盟の常任理事兼社会体育委員長を歴任された方です。多分この人は剣道以外の面も含めて指導者としては、おそらく日本で3本の指に入ると思います。他のスポーツ界を合わせてもとにかく素晴らしい先生です。それからもう一人熊谷に来て剣道を再開しお世話になり、剣道は十数年やっていませんが、今でもご挨拶には伺っています、谷川恒夫先生。この2人の先生に巡り合えたというのは本当に宝だと思っています。

コロナが始まって売り上げが激減するが、どうにもならない。退職金積立はもう一気取り崩して、運転資金に回したりとかしている中で、ふと思いついたのが、谷川先生。谷川先生は熊谷商業のOBで日大に行かれた方なのですが、熊商での稽古会を毎月一回主宰していました。その谷川先生は稽古会の後、終わって全員が並んで礼をした後、何か稽古について講話があるのですが、その中で剣道は“呼吸は細く長く”と言われたのを思い出して先生に連絡して確か年2020年、令和2年のゴールデンウィーク後だったと思いますが、ちょうど今から4年ぐらい前ですね。お伺いして食事したときに、「先生、熊商の稽古会の後に“呼吸は細く長く”と言われていましたよね。最近仕事

の中で何となくそれをどういうふうに使ったらいいのか、少しわかった気がします。」と言った瞬間、オウム返しに「ただし攻めの気持ちがあっての話だ！！攻めの気持ちがなかったら、全くそれはただ細く長いだけで何もならない。」とパッと返されました。それで「あ、そうさうだ。必ず攻めの気持ちが、攻める気持ちで呼吸するのだ」と言われたなと思ひ出して、本当にそうだな、攻めの気持ちがなかったと気づかされました。これは武道の話ですが、例えば我々の通常の生活とか仕事に例えたら何を考えたらいいかと思うと、“攻め”を“向上心”に変えたらどうでしょうか。向上心を持って、常に呼吸を細く長くしていると、心が乱れず平に近づいていくような気がします。その平らな心で、向上心を持っていけばbest！これは最近自分が思ったのですが、呼吸はそうだよ、攻める呼吸は細く長く。心はどうしたらいいのかと思ったとき、“**広く豊かに**”したらどうかと思ひ、“常に攻めの気概で、心は広く豊かに、呼吸は細く長く”ということは今いつも考えるようにしています。今剣道の話をしてしていますが、決して自分は剣道でできるというわけではなく、心がけているということです。そういうふうにしようと思っているという話で、そういうことは今まだ出来ていません、それに向かって今努力をしているというそういう意味です。そして、誰でもが毎晩夜も寝られないような苦しい状況におかれると何かを得られるかという、多分それは人それぞれではないかと思ひます。

自分は苦しい思いをしないと駄目ですし徹底的にプレッシャーをかけられないと頑張れない性格です。逆の人もたくさんいると思ひます。今でもお取引をしている損害保険会社の営業の方が言っていたのですが、昭和のころの話ですが、ある暴力団組長の車にユーザーが接触事故を起こしてしまい、あの頃ですから多額な損害賠償金の要求がきたわけですね。呼び出され場所が横浜でまだ入社間もない保険会社の社員が運転して交渉に行き、暴力団事務所前の駐車場に車を停めて、30分経っても帰ってこなかったらすぐ警察に電話してくれとその若い社員に言って、二階事務所へ上がって行き30分以内に戻れました。しかし、その若い社員は呼吸が速くなっておかしくなりました。そこで社員を横に乗せて運転して病院へ行き救急で入院して、結局退社したそうです。そういう極度のプレッシャーがかかっちゃうと、そこで「よし、とにかく何とかしてやろう！」と思える人間と、心身に異常をきたす人も大勢いると思ひます。今で言うと、心の病とか、そうになってしまう人もたくさんいます。

先ほどの岡村先生が日本で3本の指に入り、もしかしたら日本一の指導者ではないかと思うのは、岡村先生は相手を見ているのです。岡村先生は相手、教え子を見て、それで教え子によって指導方法を使い分けます。自分の場合は厳しい環境の中でないと駄目だとわかっている、これも後で3年になってから上の先輩に聞いた話ですが、1年に入学したときに、私たち新入生が14人いて、部員が全

部で60人くらいのクラブでしたのでちょうど一番手ごろです。よく見えるのです。体育系の県道の専門家輩出する様な大人数のクラブだと先輩方や先生だって下の方が見られないですから、自分のような者はあまり相手にされません。自分みたいにやる気もない方だったら更に相手にされません。ところが10数人、上級生も10数人となると15人ぐらいの枠で4年までいますから、よくわかったようです。そうするとあいつはどういうふうには鍛えろ、こういうふうには鍛えろと指導されるとの事です。ちょうど3年になる前の春の合宿のときに上の先輩に言われたんですが、岡村先生は1年生が入ってすぐのとき、4月頃にずっと顔を見て、小宮はどんなに厳しくしても大丈夫だから徹底的にやればいいよと言ったそうです。対して、もう1人福岡から来た上田という同期には上田は小宮同様かなり頑固だけど、あいつの場合は締めすぎると精神的におかしくなる。あれはやあまり厳しくやらないよと全部1人1人そう言ったそうです。我々も確か4年のときに、あいつはこう指導しろ、こう指導しろと言われました。たった一、二回会っただけで、剣道をちょっと見て、そこを見抜いてしまうのです。これが本当の指導者だと思います。こういう指導者は今、武道でも、格闘技でも、スポーツでも、そうはいないですね！！今の指導者はスカウトマンになっています。

良い選手を引っ張ってきて、例えば高校でも大学生でも、社会人でも人を育てるということあまりをしないです。だいたいそういう点は変わってきたのかなと思ひます。このようなことから、いろいろな心の鍛え方はどういうふうには鍛えればいいのかというのは、その人それぞれなので、誰に対してはこう、誰に対してのこうというのがあるわけではないので、そのあたりは、例えば自分でもどういうふうにしたらいいかと自分なりに考えていくしかないですし、非常に難しいと思ひます。

もう一つ心という、これも昭和の話ですが会社を始めるちょっと前ぐらいに、運送業界の大先輩の社長に教わった話ですけれど、例えば自分が飲みに行きたい、自分が食事をしたい。だからお客さんを誘う。それで接待交際費で計上する。あるいは会議費、あの頃は一人3000円ですけれども、今は1万円になりました。3人で3万使えますから、飲食したいなと思ったときにお客さんを誘う、社員を誘う、誰かを誘って会議をする。あるいは食事をしながら話をする。税法上は会社の経費になるわけですね。自分が飲み食いしたいからそれをするのか、逆に社員を呼んで、こいつはどうも疲れているな、何か様子がおかしいなと「ちょっと食事でも行くか。」と言って会話をし、それで仕事に繋げるためにやっているのか。あるいは得意先の情報を聞いて会社の売上に繋げたい、自分も先週水曜日、新橋まで行って食事しながらいろいろな情報を仕入れてきたのですが、そのように情報を仕入れたい、売上げを上げるために会社を良くするためにと言って、接待交際費、あるいは会議費として使うか、それは自分にしかわからない。

俺が飲み食いたいから誘って、連れて行って、金払って、会社の方には経費とするのか。ただ、必ず結果は後で現れます。だから自分は社長という立場で、自分が飲み食いたいから、だから社員の人、得意先の人、あるいはロータリーの仲間と交際費にする、会議費にするという事はしない様に心掛けています、会社が発展しませんから。必ず結果はついてきますから、そういうのが非常に大切だと思います。ですから大先輩40年ぐらい前の話ですけど、先輩の社長が言っていたのは、人様を出しに使っては駄目だ!!というような話をされていました。

そういうふうなことで、心というのは周りから見えないですから、わかりません。自分にしかわからない。動揺しているとかプレッシャーがかかっているとか、楽しんでいるとか、それはもう自分にしかわからない。そういうものです。ですから、そういう点で異業種が集まって、このように例会をする。食事をしながら、あるいは終わってから、あるいは夜間や炉辺もある。いろいろな会話を交わしながら、自分の心を鍛えて強くするというのは、剣道がそうですけれども、剣道は相手を痛めつけるものではないです。自分を鍛える。そのために相手がいらして初めて剣道は成り立つと、よく岡村先生や谷川先生に教わりました。相手を使いながら、相手にしていただきながら自分を鍛えていきます。打って反省、打たれて感謝。打ったら、本当にこれは一本なのか？打つべきところなのか？決まったのは出ばな、引き際。そこだったのか、たまたま偶然当たったのか。偶然でもはたから見ると一本に見えます。でも、これは相手が本当に参りましたという一本ではないのかどうかというのは、自問自答しなければならぬ。だから打って反省です。そして打たれたら感謝します。打たれるというのは自分の悪いところ、弱いところを打ってもらった。それでは駄目だよ。そこは出るとこじゃないよ。そこは駄目引いたら、引いたら打たれちゃう。そういうことを教えてくれるのが、剣道だ、と岡村先生も谷川先生も同じようなことを言われました。そういう崇高なことをご指導頂いたのに本当に自分はまだまだ心が弱いし、まだなだ足りないといつも考えます。

あと、安齋さんからロータリーと絡めて話をしなければならぬとプレッシャーがかかっています。まだロータリーに入って間もない頃、熊谷のどこクラブか忘れましたが、あの頃は第5分区だったので、第5分区でIMがあったときに、名前を覚えてないですが、曹洞宗の高僧がおいでになり、その方が席について講話を始めるときに、「皆さん、お疲れでしょうから3回深呼吸をしてください。」というようなことをしました。

そのときに、吸って吐くという事を大多数の方がされていました。そうしたらその高僧曰く、呼吸という字は呼という字は呼ぶ、吸という字は吸うという字です。呼吸とは、まず最初に吐くものです。まず吐きます。吐いてから吸います。必ず吐いた以上に吸えます。人間の体、動物はそうになっています。ところが現代人は何かというと我先に何で

も欲しがり取ろうとします。要するに強欲になっているからですというような話で、なるほど素晴らしい講和だと思いました。

ここ数年前からずっと心がけているのは、自分は商売をする上では、「我は良かれ、人も良かれ、我は人よりちょっと良かれ」という気持ちで仕事をするようにしています。だからコロナのこの4年間それほど焦らずに、前のリーマンや厳しい状況において非常にプレッシャーがかかったのが、それほどかからなかったのかなど。5勝4敗1分けの理論で、4勝4敗2負けでもたまにはいいのかな、それぐらいの気持ちで今やるようになると、不思議なもので利益率が前より良くなりました。コロナ前に比べて今の方が売上も利益もいいです。多分そういうふうな、まだまだ心が弱いなというふうな自覚しながら、ただそういうことを思っているから、何か神様仏様がプレゼントしてくれているかなと思っています。

そろそろ時間が近づいてきたので、最後にもう一つロータリーの話ですが、かつてSAAをしていた時に、時間が余ったりすると、どうしようかなと思ったのですが、そういうときにSAAの委員長というのは、普段から炉辺なんかの時、炉辺というのは、みんなでやるものではないです。委員会ごとにちょっと食事したり、何人かで夜集まって話しをしたりして、そういうことをしながら人脈を作っておいて、例えば最後10分余ったらSAAで「誰々さん、すいません卓話お願いします。」そういう感じで、事前にその辺の話をした上で、時間調整はSAAの委員長がやるべきことで、多分今でもそうだと思います。昔は会場監督でしたが、今会場管理で少し変わってきているのですが、例会の時間調整の心配はSAAが調整するという事になっているはずはです。

つたない話でしたが、ありがとうございました。

松本則之 会長

ありがとうございました。本当に勉強になります。

心がけていきたいと思います。

点鐘 会長 松本則之さん

5月の行事報告

5月18日(土) ロータリーの森奉仕活



5月22日(水)

親睦旅行(国会議事堂・法務局・相撲観戦)









国際RC第2570地区第4グループ 寄居ロータリークラブ
E-mail yorii-rc@carrot.ocn.ne.jp

2024. 5. 15
No. 23

会 長 松本 則之 会報・雑誌委員長 加藤 祐司
幹 事 松本 幸男 副委員長 浅見 克一

- ・例会日時 毎週(水) 12:30~13:30
- ・例会場 Spark(寄居町商工会)
- ・住 所 寄居町寄居1228
- ・TEL 048(581)2468
- ・FAX 048(581)3530